認定特定非営利活動法人
RASA-Japan　ニュースレター
理事長　藤井典夫
〒468-0014　名古屋市天白区中平2-2627
Tel/Fax　052-803-1649　　http://rasa-japan.com
e-mail　info@rasa-japan.com
郵便振替　口座番号　0080-4-31185　　受取人　特定非営利活動法人RASA-Japan

2018.12
Vol.29

南山大学
ドミンゴス　スザ教授
Domings Sousa

RASAの顧問的存在で、RASAの活動を支援いただいている方を紹介します。
1963年生まれ。ポルトガルとイギリスにおいて哲学、神学を学ばれ、ポルトガルで司祭叙階後、29歳の時に来日されました。
現在南山大学キリスト教学科の教授であり三河カトリックセンターに在籍し、ブラジル人を支援。他、NPO法人セカンドハーベストの活動等に携わっています。
RASAは学外団体のため、大学で直接活動できませんが、大学の理念「人間の尊厳」に沿った活動をしているRASAの活動に共感して支援しています。
他の教授にも呼びかけ授業の時間をいただき、ボランティアに参加した学生が体験発表を行ってPR活動をしています。
受講者は先輩の貴重な体験談を聞くことによって、豊かな日本から貧しいフィリピンの人々への支援意欲が年々増幅しています。

ボランティア活動の意味するもの

一般的に学生は内に閉じこもる傾向が気がかりで、日本のみならず、ヨーロッパにおいても現代の学生は共通して閉じこもる傾向がみられます。
今はネットでつながっているけれど、必ずしも相互理解、連帯性があるとは言えません。むしろ分裂とかいじめとかあまりにも自己中心的な生き方が目立つように思います。「自分と考えを同じくする関係の中に閉じこもっている。」「自分の周りを見ることができない。」「携帯という繋がりの中に自分がいる」ということだけです。
今はグローバルの世界、それを超えた広い視野に立ち、国際性をもって、学校生活を送ってほしいと思います。社会の問題を見る目を養うことが大切ではないでしょうか。ボランティア活動を通じて本当の人間の接し方が変わってくると思います。いつもFacebookなどのSNSとつながっている人とは関係するけれども、現実の目に見える隣にいる人との関係があまり見えなくなっています。ボランティア活動は、閉じこもった世界から外に出て、本当の現実の人間と出会うことができます。
日本も世界も同じ問題、社会の分断、分裂の克服が課題です。このボランティア活動は現実を見て、弱い立場にいる人々に愛の手を差し伸べることによって、自分を豊かにすることができると思います。

「ボランティア活動証明書」

RASAの活動は大学の企画する活動ではありませんが、学生にとっては活動に参加したことが、人生観が変わるくらい大きな意味を持つと高く評価されている面もあります。ボランティア活動証明書を発行する意味があると思います。RASAは認定NPO法人で20年の活動実績があるので、証明書を発行できるのではないでしょうか。就職などにも一定の評価基準で評価されるのではないでしょうか。私からも提言いたします。

豊田カトリック聖心教会で募金のバザーに参加いたしました

11月23日（日）はドミンゴス神父（南山大学教授）のポルトガル語によるミサでした。参列者はこの地域に住むブラジル人の方々が大半でしたがフィリッピンの方も交じって会堂を埋め尽くされていました。私たちにはポルトガル語は理解できませんでしたが、参列者の祈りの声の中でミサを受けることができました。
ミサ後、RASA活動の説明の場はいただきましたが、募金箱を持ってのお願いはしませんでした。会堂の外ではミニバザーが開かれ、その収益金はRASAへの寄付金にしてくださるとのことでした。募金箱をやめて個人に負担感のない工夫がされていました。美味しい揚げたてのパステルが人気ですぐに完売でした。クリスマス用品も売れていました。
次回12月9日に同じバザーが予定され、併せて寄付してくださることになりました。この日の活動には、ボランティア学生3名も参加しました。
ありがとうございました。（小林）

RASA-Japanの栄養失調児救済事業

極貧地域のサウスビル小学校（在校生約6,000人）の栄養失調、発育不良の児童に給食支援を始めて、**8年目になります。**支援の児童数を増やし、給食の場所と実施を学校へ移管、会計報告も毎月学校のコーディネーターからRASAに報告をもらうようの指導。実際の給食においては、食事内容−バランスと栄養価を充実させるために予算を年々補充してきました。児童は出席率が上がり、授業の集中力がつき、学力の上がる児童が増え対象児童全員が、せめて小学校だけでも卒業して、さらに進学できるように、願って支援しています。在校生の内1500名が栄養失調症で、その内特に、先生が選んだ支援の必要な児童100名を支援。「学校に来ると毎日昼食が食べられる。」の声を聞き、**貧困のために3度共、まともな食事ができない子供たちを支援したい！**

こんなに、体が　細くて　小さいのです！

	新5年生の給食受給生徒の平均体位	平成25年度日本5年生平均体位	日本との差
体重　男子	19.13kg	34.8kg	-15.67kg
女子	18.39Kg	33.65kg	-14.26kg
身長　男子	125.6cm	138.7cm	-13.1cm
女子	127.2cm	139.6cm	-12.4cm

給食　1食の総額　119.9円

ミネラル水。食材	89．5円
ビタミン剤	6．3円
プロパンガス	1．2円
歯磨き剤	1．5円
調理人件費3人	11．6円
管理全般	6．3円
衛生消耗品	3．5円

１年間で、激やせ要管理の児童が全員、普通体位に向上します。
ラグナ州の教育省から、この成果に対し、２年連続で表彰を受けました。

①待ちに待った給食がたべられる！
②牛乳（粉ミルク）トミネラル水）を準備。
③食前に手洗いを済ませ、お祈りをしてから給食開始。
④RASAの給食対象児童が「ありがとう」と言いに来ました。
⑤Study Tourで、今夏の ボランティアが給食づくり　コーディネーターとともに
⑥ボランティアと調理責任者と

Justin De Tomas 君からの手紙

私は　Justin De Tomas です。私はラグナ州カブヤオ市バナイバナイブロック2ロット25－3　に住んでいます。私は家族の中で一番年が若いです。私たちはみんな公立小学校で学んでいます。母には仕事がありません。時々バッグを縫って、売ります。父は心臓機能停止がもとで、すでに亡くなっています。母がただ一人働いて、私たち家族を支えています。私たちは自分の家がないので、おじさんの家に住んでいます。
いつか、僕は警察官になりたいです。それは、母や　正義と支援を願っている他の人たちを助けることができるからです。
RASA−Japanがサウスビル小学校を支え続けてくれることを大変ありがたく思っています。

2019年学校建設プログラムとボランティア活動の準備が進行中！

年が明けて新年を迎えると、2月3日から平成最後の学校建設プロジェクトが始まります。
4つの大学から35名ものボランティア学生が参加します。 前回に続いて連続して参加する学生が複数います。これほどまで若者を引き付けるものは何かを「活動参加の動機」を紹介し、活動全体の動きをご紹介したいと思います。

1. ボランティア活動参加の動機

・海外で異文化を体験したい。安心できる団体であり発展途上国の地域文化に密接に関われるのが魅力。
・外国の貧困地域のボランティア活動に興味があり、子供たちのための汗を流し、触れ合い、一緒に生活できる点に惹かれた。フィリピンの人たちの役に立ちたい。
・ホームステイで海外の異なる文化、社会を体験することで、自分の視野をひろげフィリピンの役に立ちたい。
・発展途上国でのホームステイは難しい。日本での生活のありがたみを感じることができると思った。
・RASAの活動経験が将来の夢にヒントをくれるのではないかと思った。
・先輩方のボランティア活動体験談を聞いて、自分も大学生の今しかできないと思った。
・ボランティアで知り合った方のお話から、「本当の幸せ、豊かさとは何だろう」と考えるようになった。発展途上国の子供たちの様子を自分の目で見て、子供たちに触れあいたいと思った。
・昨年の学校建設活動に参加して自分の顕著な成長を感じ、フィリピンの人たちの人間性や生活をさらに学び、自分の糧としたい。
・海外のボランティア活動に興味を抱いていたが、自分の期待に沿うものがなかった。RASAのホームページに出会ってやっと「これだ！」と思い申し込んだ。

2. ホームスティの準備

ボランティア学生の安全、衛生、治安確保について地域、学校、行政、警察等と密接な打ち合わせを行い、安心したホームスティの環境確認ができました。

写真上
ブラカン州　パンディ地区サン・アントニオ小学校
2019年に完成予定の校舎です

写真下　2018年11月14日　学校建設打ち合わせ
藤井理事長を囲んで。学校長（左から2人目の女性）ほか地域行政責任者、PTA、ボランティアの方々。

3. 研修会での不安心配ごとの解消

徹底した討論を行い、現地の勉強。日本語教育など建設作業以外の活動も話し合いました。

2019-2学校建設ボランティア　第一回研修会

11月17日、南山大学キリスト教センターで開催しました。 出席は35名の参加登録者のうち24名のボランティアが集まりました。フィリピンでのボランティア活動の意義、学生に期待されていること、活動内容などの研修を行った。名簿用の顔写真も撮った。
この日は、RASA役員はシーランド名誉理事長、藤井理事長、本田理事、藤井事務局長、小林事務局員が出席した。
第2回は12月22日　第3回は1月19日の予定。

学校建設20周年記念ボランティア参加者同窓会開催

11月23日　名古屋国際センターにて開催

学校建設を1999年より始め20年経過。建設した建物も30棟。この間のボランティア参加者は約700名に上ります。

このことを記念して学生リーダーや社会人が5月頃から計画。2009年から2018年までのボランティア71名が集まりました。各年次参加の横のなつかしさはもとより、年次をまたぐ縦の絆が深まりました。

初めて顔を合わせた人たちが、「RASAのボランティア体験者」というだけで親しく、和やかに交流しました。

参加者全員で記念撮影

最後は、ジャンケン・ゲームで総会の雰囲気が最高潮に達しました。 次の開催を催促する声がたくさんありました

支援者の本の紹介

著者は国際的にご活躍の著名な素粒子物理学者であり、かつカトリックの終身助祭です。科学者と宗教家の二刀流の方です。また、 長年のRASAの支援者でもあります。名古屋大学の教授時代に、ご夫婦でご支援頂くようになりました。このたびは奥様の洋子様から、本年度の「ボランティア学生の文集」にたいし、励ましのお手紙を頂きました。

一般向けの著作の一冊を「支援者の本」としてここにご紹介します。

三田一郎著

「科学者はなぜ神を信じるのか」　講談社　ﾌﾞﾙｰﾊﾞｯｸｽ

ノーベル賞受賞者の益川教授と山中教授の対談で「雪の結晶には一つとして同じものが無い、じつに不思議だ。なぜこんなものが存在するのだろう。」と言った時「それは神様がお作りになったのだ。」と答えるとそこで科学者は思考停止となってしまう。

そして著者は、しかし人間は「あらゆる自然現象に対し「これはどうしてだろう」「あれは何だろう」と疑問を持ち、何でも説明したがる生き物です。「科学によって宇宙の始まりや、物質の始まりを少し理解したら、同時にいままで気付かなかった疑問が湧いてくる。人間には神の業を完全に理解することはできない」科学者であることと、神を信じていることが矛盾しているわけではない。事を論理的に説明されて非常に面白い本でした。

（山本）

	普通銀行・ゆうちょ銀行からのお振込み・振替		
振　込　先	三菱UFJ銀行	ゆ　う　ちょ　銀行	
	普通銀行から RASA口座へ	ゆうちょ口座から RASA 口座へ	郵便振替用紙で お振込み
支　店　名	平針支店	二一八	
口座番号	普通　0037025	12120-35666151	00890-4-31185
受取人名	特定非営利活動法人　RASA-Japan		

編集後記　RASAはつぎのサイクルに入りました。来年2月の学校建設ボランティア派遣が今の主要課題となりました。先輩学生の協力により、ボランティア学生は35名が登録。研修も始まりました。若いエネルギーがRASAを引っ張っています。11月、理事長が現地出張し、2月の学校建設の詳細も決まりました。世界的な原油上昇は鋼材や建築資材を高騰させ、フィリピンの建設費は30％以上に高騰しました。予算オーバーのため苦慮しています。バザー、募金活動も年末にかけて、わたし達の大きな課題です。

1ページは、南山大学のドミンゴス教授のインタビューの一部分を載せました。ドミンゴス教授（神父様）の学生へのボランティア活動参加の働きかけるを思いをお聞かせ頂きました。2ページは、今年9月の栄養失調児救済事業としての給食プロジェクトのまとめて報告しました。 3ページは、来年の2月の学校建設事業への準備状況の報告です。 4ページは、初めてのボランティア同窓会開催を報告です。立派な社会人になった姿を見せてくれました。

皆様のご意見、情報をお待ちしております。　**（小林）**

RASA-Japanは皆様の会費と寄付金で運営されています